

サステナビリティ基本方針

ジーテクトの目指す、人とクルマと地球のより良い未来のために、事業活動を通じた持続可能な社会の実現と企業価値の向上に努めます。

■環境保護

事業活動に伴う温室効果ガスの排出削減をはじめ、大気、水、土壌などの環境負荷の削減に努め、地球環境の保護に努めます。

■持続可能な社会を支える技術革新

顧客・消費者ニーズに応える、高品質な製品と技術革新への挑戦で、持続可能な自動車社会を支えます。

■人権尊重

強制労働、児童労働を排除し、すべての人の人権及び労働者としての基本的権利を尊重します。また、すべての差別を禁止し、多様な価値観、個性を尊重します。

■コンプライアンス

腐敗防止や不正取引の防止など、国際ルールや各国・地域の法令を遵守するとともに、公正で透明な企業統治を行います。

■適正な労働環境の維持、向上

従業員一人ひとりが、安全に安心して働くことができ、かつ働きがいや自己成長を感じられるような職場環境の向上に努めます。

健康経営への取り組み

健康宣言

ジーテクトグループは「情熱と革新を融合させ、人とクルマのより良い未来をかたちづくる」というビジョンの実現に向けて、従業員一人ひとりとその家族が心身ともに健康であることが最も大切な財産であると考えます。

従業員とその家族の健康維持、増進活動に対する支援と、組織的な健康づくりに向けた推進によって、従業員一人ひとりがいきいきと豊かで快適・健康に働くことができる会社づくりに努め、会社の価値向上と豊かな社会の実現に貢献していくことを宣言します。

2021年9月1日
代表取締役社長 高尾 直宏

定期健康診断・特殊健康診断、人間ドック受診	血圧、血糖値、BMI、コレステロール値などの具体的数値目標を設定
ストレスチェックの実施	ストレス度の高い従業員に対する専門医の健康指導を継続
有給休暇の取得推進	5日間連続の取得を奨励
残業時間の削減	生産性を向上し、残業時間を削減
全社的な禁煙率の設定	全社禁煙率目標の設定と段階的な引き上げ
定期的な運動習慣の奨励策	運動習慣を日常に取り入れるアプリなどの導入

株主様アンケート 皆様からの主なご意見・ご感想

前回実施のアンケートに、1,864枚（回収率16.2%）のご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。309名の株主様から「ご意見・ご感想」をいただき、全件を9月24日の取締役会に報告の上、今後注力すべき情報発信の内容等について議論しました。

株価・業績・配当・優待について

●株価と業績の回復を願います。

●厳しい経営環境ではありますが、増配や株主優待継続など感心しています。

将来の展望・情報発信について

●EV分野での成長を期待しています。

●EV化に対応するための経営方針やその具体的な戦略をIRとして発信してほしいです。

その他

●工場見学会を再開してほしいです。

●定期的なアンケートの実施で改善を進めていく姿勢が良いです。

●コロナ禍に負けず頑張ってください。10周年おめでとうございます。

工場見学会のお知らせ

皆様のご期待にお応えし、株主様向けの工場見学会を埼玉工場にて再開いたします。皆様のご応募をお待ちしております。

開催概要

見 学 場 所：埼玉工場（埼玉県深谷市）
同工場では、ホンダ様のフリードやステップワゴンなどの車体部品を生産しております。
集合・解散：JR熊谷駅 改札口（バスにて埼玉工場まで送迎いたします。）お車等での直接のご来場はご遠慮ください。

開 催 日 程：2022年6月1日（水）13：15集合（予定）
内 容：概要説明の後、徒歩にて構内をご見学いただく予定です。
対 象 者：2021年9月末時点の当社株主様
募 集 人 数：20名程度
参 加 費：無料（ただし、集合・解散場所までの交通費や宿泊費等は各自のご負担とさせていただきます。）



応募要領

応 募 方 法：同封の「株主様アンケート」に記載の「工場見学会へ出席をご希望される株主様」の欄に必要事項をご記入の上、ご返送ください。

応 募 締 切：2022年1月7日消印有効とさせていただきます。

当 選 発 表：応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。当選発表につきましては、4月上旬～中旬発送予定の当選通知をもって代えさせていただきます。その際、当日の運営等詳細もあわせてご連絡いたします。

※ご応募により当社が取得する個人情報は、本見学会を実施する上で必要な限りにおいてのみ使用いたします。

お問い合わせ先
株式会社ジーテクト 工場見学会係
電話番号 048-646-3404
9:00～17:00（土、日、当社休日を除く）

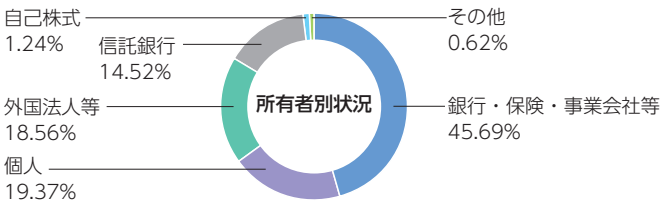
会 社 概 要（2021年9月30日現在）	
■社 名	株式会社ジーテクト
■創 業	1947年4月1日
■設 立	1953年11月4日
■資 本 金	4,656,227,715円
■代表取締役社長	高尾 直宏
■事業内容	車体部品、トランスミッション部品の製造販売、金型・溶接設備等の製作販売
■拠 点	国内9拠点、アメリカ5拠点、カナダ1拠点、メキシコ2拠点、ブラジル1拠点、イギリス4拠点、ドイツ1拠点、スロバキア1拠点、中国6拠点、インド1拠点、タイ4拠点、インドネシア1拠点

取 締 役 及 び 監 査 役（2021年9月30日現在）	
代表取締役社長 社長執行役員	高 尾 直 宏
取締役 取締役執行役員	吉 沢 勲 事業管理本部長、 コンプライアンスオフィサー、コーポレート部長
取締役 取締役執行役員	瀬 古 浩 技術本部長
取締役 取締役執行役員	廣 瀬 文 彦 営業本部長
社 外 取 締 役	大 胡 誠 弁護士
社 外 取 締 役	稲 葉 利江子 津田塾大学 准教授、理学博士
常 勤 監 査 役	中 西 孝 裕
常 勤 監 査 役	田 村 依 雄
社 外 監 査 役	新 澤 靖 則 税理士
社 外 監 査 役	北 村 康 央 弁護士

株主メモ		
事 業 年 度	4月1日～翌年3月31日	上場証券取引所
期末配当金受領株主確定日	3月31日	公告の方法
中間配当金受領株主確定日	9月30日	東京証券取引所（市場第一部）
定 時 株 主 総 会	毎年6月	当会社の公告は、電子公告により行います。
株 主 名 簿 管 理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社	ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
特 別 口 座 の 口 座 管 理 機 関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部	
同 連 絡 先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL.0120-232-711（通話料無料）	

株 式 の 状 況（2021年9月30日現在）
発行可能株式総数 100,000,000株
発行済株式総数 43,931,260株
株主数 11,852名

株式分布状況



大株主（上位10名 敬称略）

株主名	持株数（株）	持株比率（%）
本田技研工業株式会社	13,035,098	30.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3,139,200	7.24
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR：FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND	2,918,382	6.73
菊池俊嗣	2,225,901	5.13
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	2,221,984	5.12
株式会社ケー・ピー	2,200,800	5.07
TKホールディングス株式会社	2,194,344	5.06
高尾直宏	1,286,576	2.97
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	825,869	1.90
RE FUND 107-CLIENT AC	673,800	1.55

（注）持株比率は、自己株式545,086株を控除して計算しております。

株式会社ジーテクト

本社
〒330-0854
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-20

UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



第11期 株主通信

上半期のご報告

2021年4月1日～2021年9月30日

株式会社ジーテクト

証券コード：5970



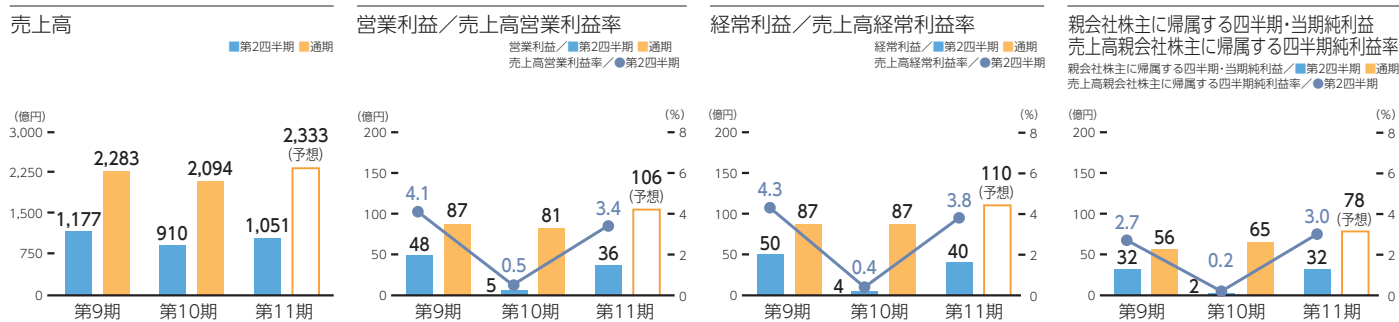
代表取締役社長 高尾 直宏

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。ここに2022年3月期上半期（2021年4月1日～2021年9月30日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも皆様からのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

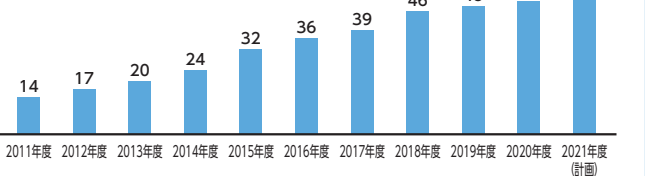
2021年12月

連結財務ハイライト（2021年4月1日～2021年9月30日）



2022年3月期は、ジーテクト発足10周年記念配当を実施します。

1株当たり年間配当金（円）



※2014年4月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を実施しているため、2011年度から2013年度までの1株当たり配当金は株式分割考慮後の数値を記載しています。

トップメッセージ

当期（2022年3月期）は、昨年からの半導体不足の問題に加え、東南アジアにおける新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンがさらなる半導体不足や部品調達難を招き、自動車メーカーは生産停止に追い込まれ、当社にも影響しています。

当期の上半期は、前年同期との比較では、コロナ禍からの生産回復で量産売上及び非量産売上が増加しましたが、当初計画を大幅に下振れ、連結売上高は1,051億円（前年同期比15.5%増）、営業利益は36億円（同611.2%増）となりました。経常利益は40億円（同891.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は32億円（前年同期は1億9千万円）となりました。

上半期の業績を踏まえ、通期業績見通しを当初予想から修正し、連結売上高は、2,333億円（前期比11.4%増）、営業利益は106億円（同31.7%増）、経常利益は110億円（同27.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は78億円（同19.4%増）を見込んでいます。

このような足元の外部環境に加え、気候変動問題や自動車業界そのものの大変革などにおいても、時流を先読み積極的に先手を打つため、当社は5月に新経営戦略（「地球環境への対応」、「EV関連事業の確立」、「人財の多様性向上」、「既存事業の変革」）を掲げました。車体部品メーカーとしてEV領域への取り組みの加速と気候変動問題に積極的に取り組んでいくことで、さらなる成長を遂げてまいります。

まず、喫緊の課題は気候変動対策です。当社は、2050年度にスコープ3を含むCO₂排出量実質ゼロを宣言しました。潤沢なキャッシュ・フローを活用して、脱炭素投資を積極的に進め、持続可能な社会と企業の実現を目指します。また、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）に沿った情報開示をするため、準備を進めております。

次に、昨今の世界的なEV化の波を当社にとって成長の機会と捉え、中国、北米、欧州にビジネスターゲットを定め、開発提案と販売力の強化で新領域に攻めていきます。ライフサイクルの観点から、リサイクルしやすいアルミが再び注目を集めており、当社開発のフレックスバッテリーハウジングの素材をアルミ主体に変更し、プラットフォームに搭載させ、軽量高剛性のスチールボディと組み合わせます。このEV車体をジーテクトの集大成として販売強化していきます。また、EVの車載用モーターは、ハイブリッド車も含めた電動車に広く搭載されるパワートレインで、今後市場の拡大が期待される領域です。電動パワートレインの中から、まずは当社のトランスミッション製品に活用している精密プレス技術を土台にモーターコアの開発に着手し、モーターコア加工

メーカーや精密金型メーカーと協業を開始しました。モーターコアのうち、ローターコアについては、アセンブリまで行います。ただちに生産技術を習得し、早期に事業化します。

これらを支えるものとして、重要なのが人財づくりです。強く、柔軟な企業体質にするためには、多様な人財を増やす必要があります。職場環境を整備し、人事制度を見直すとともに、外部人財の登用や女性の新規採用拡大と上級管理職へのステップアップ支援等を通じ、新しい価値を生む企業風土を醸成し、常に変化する組織を目指してまいります。

さらに、DX（デジタルトランスフォーメーション）では、製造業にとって最も重要な品質と原価領域で、これまで一部の技術職や専門職が使っていた知識や経験値をデータ化して可視化するなど、企業体質の変革に取り組み、未来に向けそのノウハウを次世代に伝承していくことが、ジーテクトDXです。

最後に、株主還元については、ジーテクト発足10周年を記念した特別配当（年間で6円）を実施します。中間配当は1株当たり28円と決議し、期末配当も28円の年間で56円を予定しています。今後も安定的な配当を継続し、長きにわたり応援してくださる株主様の皆様に還元してまいります。

今後も厳しい経営環境が続きますが、事業を通じたサステナビリティへの取り組みを推進し、環境の変化を成長の機会へと変えられる「レジリエントな企業」となるため、躊躇なく改革を断行し、スピード感をもって力強く舵取りを行ってまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
高尾 直宏



セグメント別業績



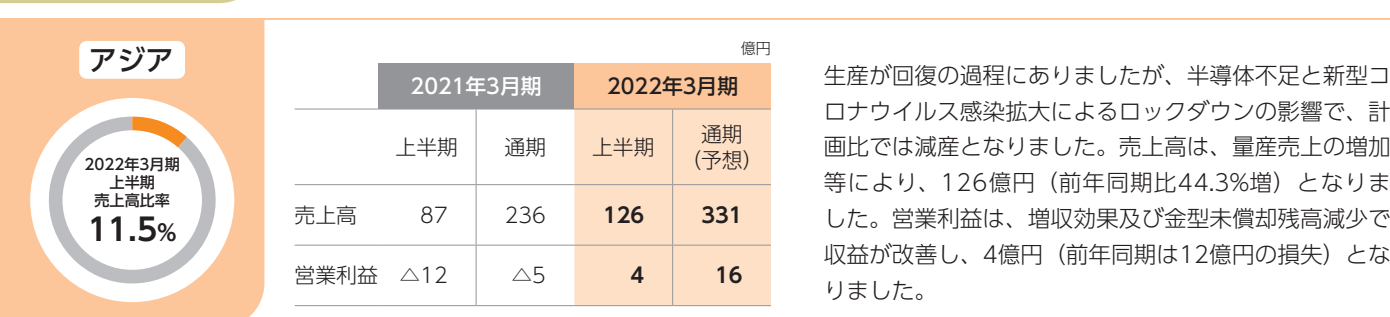
半導体や部品不足の影響で得意先が減産となりました。売上高は、量産売上及び型設備売上の減少により、200億円（前年同期比21.9%減）となりました。量産・非量産売上減少の影響が大きく、急激な生産変動に固定費の削減が追い付かず、営業損失が拡大しました。挽回生産に向けて低コスト体質を維持し、業績改善につなげていきます。



半導体不足の影響で生産台数の伸びが鈍化しました。量産売上増加及び為替影響等により、売上高は332億円（前年同期比7.6%増）となりましたが、計画比では下振れました。人手不足や、労務費等の製造費用の増加に加え、販管費の削減が追い付かず、営業損失となりました。生産回復に向け要員の確保とコスト低減を図っていきます。



半導体不足の影響はありましたが、欧州系自動車メーカーからの受注生産台数は増加しました。7月にホンダ様の生産が終了しました。売上高は、量産売上の増加及び為替影響等により、101億円（前年同期比69.8%増）となりました。営業利益は、増収効果や補償等により、22億円（前年同期の7.2倍）となりました。



生産が回復の過程にありましたが、半導体不足と新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンの影響で、計画比では減産となりました。売上高は、量産売上の増加等により、126億円（前年同期比44.3%増）となりました。営業利益は、増収効果及び金型未償却残高減少で収益が改善し、4億円（前年同期は12億円の損失）となりました。



半導体不足の影響により、夏以降減産となりました。売上高は、材料単価の変更及び為替影響等により、290億円（前年同期比7.7%増）となりました。営業利益は、減産の影響に加え、労務費の上昇も影響し、23億円（同12.0%減）となりました。他社販売が拡大しており、高水準の生産が持続する見込みです。

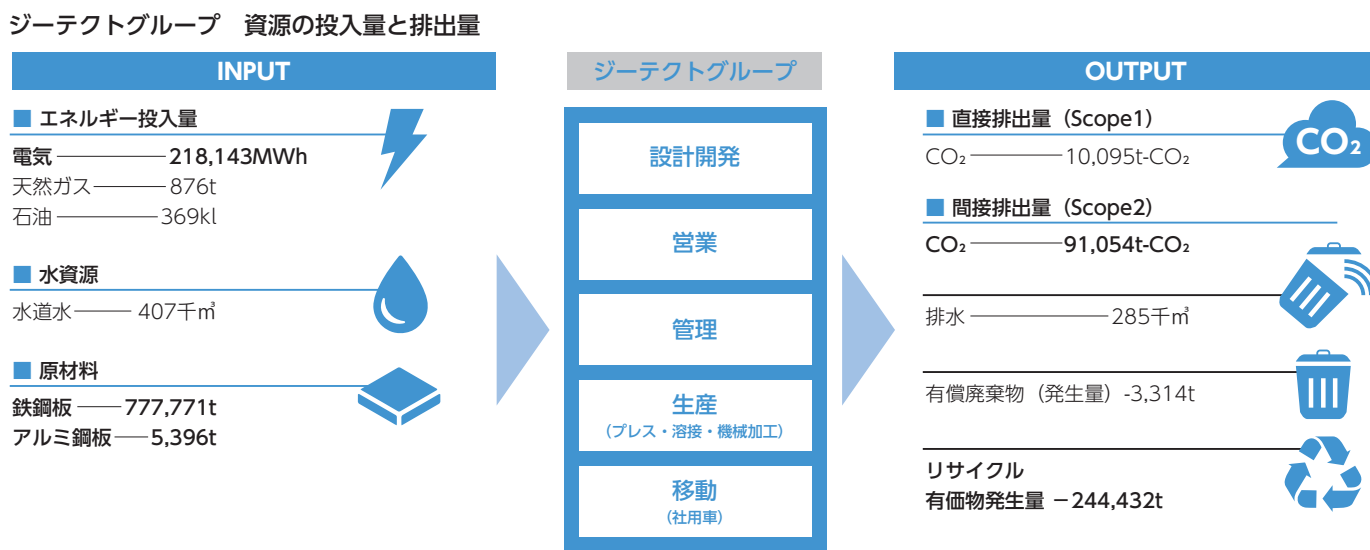


半導体不足の影響はほとんどなく、売上高は、量産売上及び型設備売上の増加等により、50億円（前年同期比241.1%）となりました。営業利益は、受注拡大及び生産台数増加による増収効果や固定費削減効果等により、10億円（前年同期の96.6倍）となりました。

TOPICS

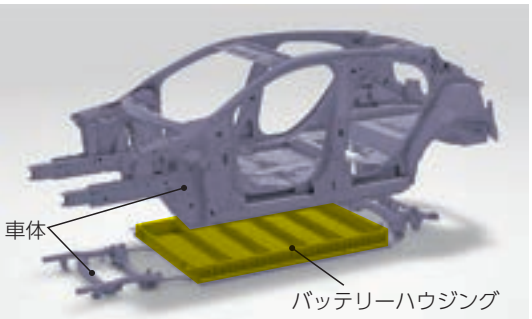
環境への取り組み

ジーテクトグループは、下の図の通り、エネルギーの投入量では電気が最も多く、CO₂の間接排出量が91,054t-CO₂に上ります。再生可能エネルギー由来の電力の割合を増やして、CO₂の排出量を削減していきます。ひとつの試みとして、日照時間の長い群馬工場での太陽光発電能力を増強します。一方で、原材料の投入では、鉄鋼板を777,771t投入しており、プレス加工から出る廃材はすべて電炉メーカーに送られ、リサイクルされています。原材料のアルミのリサイクルについては、次のトピックをご覧ください。



EV関連事業の確立

アルミ製バッテリーハウジング
当社は、コストと軽さを両立させるため、鉄とアルミを最適に組み合わせ、車両サイズに合わせて拡張可能なフレックスバッテリーハウジングを開発してきました。世界の自動車市場では、素材から製造・廃棄までのライフサイクル全体での評価（LCA）が目玉され、廃棄後のリサイクルのしやすさからアルミ製が主流になっています。当社は、専業メーカーと協力してアルミの加工・接合技術を高め、量産体制を構築していきます。アルミ製バッテリーハウジングの販売ターゲットは、中国のボリュウムゾーンであるCATL社とし、その先にある各OEMに対するEVプラットフォーム提案を視野に入れてまいります。



モーターコア事業化

当社は、車載用モーターの主要部品であるモーターコア事業に参入します。モーターコアは、モーターを構成する部品の鉄心部分にあたり、組み立ての基盤になることから、極めて高精度な加工技術が必要です。当社の栃木工場ではトランスミッション部品を生産し、モーターコア事業は、その精密加工技術を応用します。精密金型の調達と精密プレスの生産技術の確立のため、精密金型メーカーやモーターコア加工メーカーと協業を開始しました。精密金型メーカーからは、金型の供給を受けます。既に試作型の製作段階にあり、国内の拠点に試験研究施設を導入する予定です。モーターコア加工メーカーからは、技術指導を受け、量産加工ノウハウを習得します。モーターコアのうち、ローターコアについては、プレス加工後のアセンブリまでを行います。ターゲット地域を中国及び北米市場として、車載モーターメーカーを中心に販売活動を展開します。



販売体制強化

EV化の流れを成長の機会として確実に取り込むため、海外の販売体制を強化します。中国、ドイツ、アメリカの3つのリサーチ拠点を、開発機能を持つ営業開発拠点とし、各地域における提案型販売を推進していきます。まず、中国において上海のリサーチ拠点を現地法人化し、市場のニーズに対してスピーディに対応します。また、現地スタッフを積極的に採用し、潜在的な需要家を掘り起こして、強固な信頼関係を築きます。開発領域では、迅速な開発結果につなげるため、海外語学研修を終えて専門分野で経験を積んだ若手技術者を派遣します。北米、欧州の拠点でも提案型販売を推進し、販売拡大につなげてまいります。